

第九回公演・動画解説資料

新作神楽「根国試練」

(解説資料)

2016年9月9日、19:15～20:00ごろまで。約45分間の里神楽映像です。

江戸里神楽公演学生実行委員会では、第九回公演ご来場者、並びにデジタル・オーディエンスを対象に神楽公演動画を、試験的にウェブにアップしました。

ただ、私どものウェブサイトは、アクセス数の動きを見ると実行委員会の「社内報」的な性格が強いことが判明しています。

デジタル・オーディエンスと表現したものの、江戸里神楽、相模里神楽に少しご関心がある方々という限定的な皆様に対する解説内容になっています。アップ後に加除訂正を含めて、追記・充実していきたいと考えています。

なお、本演目は新作神楽です。本公演後、さらに練り上げ、洗い直しを重ねていただき、相模里神楽の目玉演目に成長していきますことを期待しています。

【あらすじ】

のちに大国主命と呼ばれる出雲国の創始者である大穴牟遲命は、現出雲大社に祀られる主祭神であります。国造りの神、農業神、商業神など、あらゆる信仰を集める偉大な神様です。

しかし、青年期の彼はまだ物腰の柔らかな優しい神で、八人兄弟の末っ子でした。兄達に殺されそうになり、天照大御神の弟、建速須佐之男命を頼って「根の国」に降り立ったのでした。

舞台はその根の国から始まります。建速須佐之男命の娘で才色兼備の須勢理姫と根の国に逃げてきた大穴牟遲命が、互いに恋に落ちます。

しかし、父である建速須佐之男命は結婚に猛反対。そこで困難な試練を与え、その試練を乗り越えたら二人の結婚を許すことにしました。

機転の利く須勢理姫と、天の使いである鼠の化身の力により、最終的に試練を乗り越えた大穴牟遲命。建速須佐之男命は敬服し、二人の結婚を承諾します。

祝宴の席で泥酔してしまった須佐之男命。父に気付かれないように、大穴牟遲命と須勢理姫は、建速須佐之男命が持つ生太刀、生弓矢、天詔の琴を持って御殿を後にし、出雲を目指します。

大事な宝を娘夫婦に奪われた建速須佐之男命。怒りがこみ上げつゝも、そこは親心。二人のこれからの未来を大いに応援し、命に「大国主」という名を与え、根の国から二人を見送ったのでした。

大穴牟遲命が大国主命へと変わる転換期、これは昔の男性の元服を物語っているかのようです。沢山の試練を乗り越え、聡明な須勢理姫に導かれながら、建速須佐之男命の愛によって成長する。とても幸せで明るいお神楽の物語です。

【舞台台本（主な演技の流れの説明）】

- 01：先ず、最初に、王管の「下り端」で須勢理姫が登場します。
- 02：御神前に一礼し、神楽鈴を手にとって、王管の本間の曲で「本間之舞」を舞います。
- 03：舞の途中で意気消沈した大穴牟遲命が現れます。舞台上で舞っている須勢理姫を見つけます。
- 04：神楽鈴を手にして振ると、その音に気付いた須勢理姫はびっくりいたします。いつのまにか連れ舞となります。
- 05：舞台の正中でお互いに向かい合い、一瞬で恋に落ちます。
- 06：篠笛で「昇殿」となり、互いに挨拶いたします。建速須佐之男命の知恵を借りに来た大穴牟遲命は、須勢理姫がその娘であるとは知らずに、根国に来た理由を話します。
- 07：自分と結婚するために父である建速須佐之男命に会いに来たと早とちりした須勢理姫は、すぐに自分の父である建速須佐之男命に会わせようとします。
- 08：積極的な女性である須勢理姫の勢いに押される弱気な大穴牟遲命。少しびくびくしてしまいます。
- 09：王管で「乱拍子」となり、建速須佐之男命が登場します。
- 10：二人は慌てて下手に座り、頭を下げます。やはり須勢理姫が前に座ります。王管で「下り端」となります。
- 11：着座した建速須佐之男命は、姫の後ろにいる若い男に気が付き、姫を問いただします。
- 12：「父上、大穴牟遲命様は私と結婚したいとおっしゃっております！だから私は結婚いたします！！」

- 13：激怒する建速須佐之男命。お囃子は、早い「下り端」で緊迫感を表現します。
- 14：「何！ふざけたことを言うな！」と叫ぶと、大穴牟遲命は恐怖で後ずさりしようとしします。逃げ出す大穴牟遲命の背中を須勢理姫は、引っ張って引き戻します。
- 15：まったく聞き入れない娘に困った建速須佐之男命は、しばらく考えた後、あることを閃きます。
- 16：「ではお前たちに試練を与えよう。見事乗り越えたら結婚を許そう」と命じます。
- 17：喜ぶ二人。ひとまず大穴牟遲命は休息するよう命じられます。
- 18：舞台、正中に置かれた九息にもたれかかった大穴牟遲命は眠りに入ります。大太鼓だけで静けさを演出します。
- 19：寝静まった様子を確認した建速須佐之男命は、大量のムカデと蛇を部屋に放り込みます。
- 20：大穴牟遲命は、放り込まれた大量のムカデたちにビックリし、慌てて逃げようとしします。王管の「早」となります。
- 21：隣の部屋で様子を伺っていた須勢理姫は、予想していたように大穴牟遲命の前に現れます。
- 22：須勢理姫は、持っていたヒレを三度振ります。
- 23：すると不思議なことに、ムカデ達が一斉に逃げて行きました。
- 24：その様子を見ていた大穴牟遲命は深い恋に落ち、喜びの連舞をします。
- 25：囃子は王管の「下がり端」に変わり、二人は下手に座り、建速須佐之男命にご挨拶をいたします。

- 26：びっくりした建速須佐之男命は、少し考え込むと、次の試練を言い渡します。手元に持っていた矢を放つので、それを取ってこいと命じたのです。
- 27：承知した大穴牟遲命たちの前で、建速須佐之男命は大きく矢を飛ばします。
- 28：大穴牟遲命と須勢理姫は、草原に出て、矢を探しにまいます。太拍子と大太鼓のみで囃したて、緊迫感を誘います。
- 29：その時、突如大きな炎が近づいてきて、二人の行く先をふさびます。あっという間に草原は火の海となりました。お囃子は、王管の「探りの早」で激しさを現わします。
- 30：身動きできない二人。その時、お囃子が「乱拍子」に変わり、鼠の化身がどこからともなく現れます。
- 31：大穴牟遲命の前で鼠の化身は、私はあなたを助けるためにまいました。どうぞ私に任せてください」と話します。
- 32：天から賜りし消化器で炎を食い止めます。
- 33：辺り一面平和が戻り、「下り端」となります。改めて礼を言う大穴牟遲命。鼠の化身は、建速須佐之男命が放った矢を渡して一礼し、「乱拍子」で野に帰っていきます。引っ込みの最後は、鼠らしい所作があります。里神楽では、獣が登場する場合、擬人化したとしても、どこかに獣の所作を入れることがよくあります。
- 34：御殿に戻った大穴牟遲命たちは、建速須佐之男命に帰還のご挨拶をします。
- 35：再び驚いた建速須佐之男命は、大穴牟遲命を娘の夫として受け入れることを決め、祝宴の準備をいたします。
- 36：お囃子は「昇殿」に変わり、三人で賑やかな宴席となります。
- 37：お囃子は「鎌倉」となり、舞い踊った建速須佐之男命は、良い気分にな

- って眠ってしまいます。
- 38：その様子を見た大穴牟遲命と須勢理姫は、正中で向かい合い、駆け落ちの覚悟を決めます。
- 39：建速須佐之男命が最も大事にしている生太刀と生弓矢を大穴牟遲命が、天詔の琴を須勢理姫が手に抱え、寝ている隙に御殿を飛び出します。
- 40：しかし道中の黄泉比坂で、須勢理姫は躓いて倒れてしまいます。天地にとどろく琴の音が鳴り響きます。
- 41：その音に気づいた建速須佐之男命は、すぐに目覚めますが、二人があまりにも遠くへ進んでいました。
- 42：もう追いつけないと悟った父である建速須佐之男命は、娘である須勢理姫としばし見つめあいます。
- 43：娘の顔を見つめ、その決意を感じ取った父。遙か遠くに行ってしまった娘夫婦を想い、寂しさと苦しさの中、新しい夫婦の幸せを願う気持ちを込めて、「雲出る 大国主の その道を 造り固めよ 常世の国を」と謡います。建速須佐之男命の複雑な心情を表現する、最も難しい場面です。神楽師の技量の見せどころです。
- 44：大穴牟遲命と須勢理姫は、深々と建速須佐之男命に礼をし、軽快な「金獅子」という曲で意気揚々と引っ込みます。
- 45：二人を見送った建速須佐之男命は、これから二人が統治する出雲国に日本の未来を託して、一人で御殿にお下がりになります。

○基本データ（奥付）

- 動画名称 『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演～根国試練』（会場撮影）
- 動画番号 9-04
- 出演団体 相模里神楽 垣澤社中（神奈川県厚木市酒井）
- 公演会場 さいたま芸術劇場小ホール（さいたま市中央区）

主 催 江戸里神楽公演学生実行委員会
開催期日 2016年9月9日(金)
撮影編集 イナ・ヴォイス若葉会(会長 葭谷昭)
動画UP 葭谷 昭(いきがい大学伊奈学園ボランティア情報センター)
江戸里神楽公演学生実行委員会
写真撮影 ソニオンフォトクラブ有志(会長 辻田勝裕)
参考資料 『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演解説プログラム』
(2016年9月9日刊行)

【配役】

大穴牟遲命	信太 龍也	太拍子	垣澤 良
須勢理姫	垣澤 瑞貴	笛	西方 陽一
建速須佐之男命	垣澤 勉	大太鼓	神成 信之
鼠の化身	中山 敏男		
黒衣	垣澤 純子 加藤美津枝	臼井 良子 石渡 勇	

○公演協賛会社等(敬称略)

有限会社望月商店 有限会社ドゥクラスター 株式会社フミテック 株式会社
大丸衣裳店 有限会社とらや 整体リラクワ表参道 株式会社ベル・アンファ
ン 白石真弓染色アート学院 JA あつぎ厚木市農業協同組合 湘北短期大学
株式会社程島商店 有限会社豆庄 株式会社福田建具 共栄建設株式会社
岩槻人形協同組合 薄井崇宏

追記・垣澤社中の功績・神奈川の大学生スタッフの尽力

第九回公演、私たちは神奈川県厚木市酒井から、相模里神楽 垣澤社中をお招きしました。私は、そのことの大変さを伝えるとき、出演者のスケジュールをまず伝えることにしています。公演当日、午前6時30分に本厚木駅に集合して、6時46分発の「さがみ68号ロマンスカー」に乗車、なんとか午前9時前にさいたま芸術劇場(新宿駅経由で埼京線与野本町駅下車)にお越しいただいた、という事実です。

演じ手さんは、それから支度をして、リハーサルへ。昼食も慌ただしく(もちろん、夕食も慌ただしい)打ち合わせをしながら、着付けに入らないと間に合いません。序開きの寿式三番叟からフィナーレの寿獅子舞までの一日は、着付けの連続ですから本当に修羅場だったと思います。

9月9日の前日、つまり8日ですが厚木の家元の家から神楽衣裳その他の神

楽用具を積み出して、午後3時過ぎには二台の自動車で劇場まで運び込んでいます。小ホールの舞台裏付近で開梱して、衣裳・道具の確認をしておられました。道具に忘れ物があったら、アウトですから懸命な確認作業がありました。

立ち会った一部の学生スタッフは、その後、劇場内で明日に向かったのミーティングを開催されていました。

9日の午後8時。終演後、お客さんをお見送りしてから片付けに入り、レンタカーに積み込むまでの時間がおおよそ1時間余でした。さすがに、舞台を終えて、片付けて、厚木まで運搬するのは、無理。疲労困憊の状態ですから危険。そこで、垣澤父子のお二人が劇場近くに宿泊して翌朝、厚木に戻って行かれたしだいです。

翌朝には劇場にて、プログラム、チラシなどの残部を小さな日産マーチ・神楽号に積み込み、そしてレンタルしていたスクリーンとプロジェクターの搬出準備に追われていました。

動画を再生しながら、当日にご来場ただ来ました皆様、そしてデジタル・オーディエンスという未知の方々に対して、「あらゆる困難を克服して、垣澤社中の皆さんが公演にご協力してくださった」という事実をお伝えしたいと思いました。同時に、相模の神楽師魂もお伝えしたいと思いました。

加えて、学生ボランティアの活躍についても、一言触れさせていただきます。平塚市の東海大学、厚木市の湘北短期大学から、ボランティア学生スタッフが参加されました。東海大スタッフは舞台、字幕制作を担当していただき、湘北短期大学の学生スタッフは、司会進行を担当してくださいました。東海大スタッフも垣澤社中と同じように早朝に出発、湘北短期大学の学生スタッフは浦和で前泊という手配をされての参加でした。

こうした大学サイド、大学生スタッフのご協力があって、この公演は成功したのだと思っています。深く感謝しています。

(構成&文責・江戸里神楽公演学生実行委員会)

ご参照 新作神楽に関して、ご来場者の感想はウェブにアップされているのでご一読ください。当ウェブ「新着情報」2016年9月26日アップ(神川町のNKさん)、同じく2016年10月24日アップ(埼玉県のTKさん)の感想文をどうぞ。